弟のアトピーをきっかけに家族で相談会にかかり不登校の姉弟が進学したケース

日本ホメオパシーセンター千葉船橋本町
工藤聖子

①14才　男性（次男）
主訴　アトピー

②50才　女性（母）
主訴　肩こり、首こり、慢性疲労

③17才　女性（長女）
主訴　腹痛、めまい、生理痛

家族の状況

- 父は仕事で忙しく、不在のことが多い。
- 母も仕事をしており、家を空けている。
- 長男（２１才）は発達障害で、通信制の高校を卒業し、家にいる。
- 長女（１７才）も不登校で家にいる。
- 次男（１４才）も不登校で家にいる。
- 母が２０年前に抑うつ状態となったことをきっかけに、ホメオパシーを始める。

次男（14才）

- 発達障害の兄に、蹴られたり、殴られたりしてきた。逆らったことはない。
- 小学校２年生で不登校になり、家で二人になるようになってから。姉も一緒に隠れていた。
- そのことを母親は知らない。
- 小さい時から場の空気を読んでいる。
- 姉が大好き。兄のことは憎んでいる。

長女（17才）

- 兄に対し「７つ下の弟に暴力振るうことあるのか？なんでそんな小さな子に対して！」という嫌悪感がある。
- 「兄が弟に暴力を振るっているとき、結局は自分も怖くて、弟を守ってあげられなかった。もっと自分はできたんじゃないか？」と自分をせめている。

家族で話し合い

●MT）サポートレスキュー
●須我神社・奥宮の水のレメディー（生きる気力がない）
●オピューム（無感動・無感情）

次男　その後の変化

- 感情を抑圧する様子がなくなった。
- 高校に進学し、登校。
  目標もでき塾にも行くようになった。
- アトピーは良くなってないが、薬を塗ることを受け入れ、魂に灯がついたことを良しとしてもらう。

長女　その後の変化

- 大学に進学し、家を出て寮に入る。
- 友達もでき楽しくキャンパスライフを送っている。
- 食べられなかった朝ごはんも食べられるようになった。

母　その後の変化

- 「死ぬまで3人の子どもの面倒を見ないと！」という気持ちはなくなった。

- 今はお母さんだけ相談会を続けており、インチャ癒しに取り組んでいる。

まとめ